



2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年11月8日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 4772 URL http://www.streammedia.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 崔 官鎔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第3四半期の業績 (2019年1月1日～2019年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	5,047	△5.4	76	△51.8	76	△51.4	53	△62.5
2018年12月期第3四半期	5,335	△2.3	158	△43.4	157	△44.5	142	△47.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第3四半期	3.23	—
2018年12月期第3四半期	8.60	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第3四半期	5,375	4,714	86.8	282.68
2018年12月期	6,418	4,681	72.6	282.35

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 4,667百万円 2018年12月期 4,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年12月期	—	0.00	—	—	—
2019年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年12月期の業績予想 (2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,800	△17.8	80	8.7	80	9.6	70	14.1	4.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2019年12月期3Q	16,520,351株	2018年12月期	16,520,351株
2019年12月期3Q	9,254株	2018年12月期	9,197株
2019年12月期3Q	16,511,123株	2018年12月期3Q	16,511,201株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、輸出・生産面に弱さが見られる中、雇用・所得環境は引き続き改善傾向にあり、また政府の各種政策の効果もあって緩やかな回復が続くことが期待されるものの、消費税増税に伴う消費者マインドの減速やコスト負担の増加、貿易摩擦に対する警戒感や世界経済の低迷の影響等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当事業を取り巻く環境といたしましては、CS・BSデジタル放送の契約者数は年々減少傾向にある一方で、OTT(ネット配信による動画配信)サービスの拡大、衛星放送の新4K8K化など放送コンテンツの多様化やユーザーの嗜好性とライフスタイルの変化に応じたビンジ・ウォッチング等の視聴スタイルの多様化など、日々刻々と変化しております。

このような経営環境の中、当社の第3四半期累計期間におきましては、引き続き人気コンテンツの番組販売及び商品化権販売等の版權事業が順調に推移し、当社の業績に貢献いたしました。放送事業におきましては、自社テレビ局でありますKNTV、DATV、リニア配信のKchan!韓流TVの3チャンネル体制で臨み、他のチャンネルとの差別化と韓流コンテンツに対する顧客(視聴者)の潜在ニーズの掘り起こしを図ってまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は50億47百万円(前年同期比5.4%減)、営業利益76百万円(前年同期比51.8%減)、経常利益76百万円(前年同期比51.4%減)、四半期純利益53百万円(前年同期比62.5%減)となっております。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(ライツ&メディアコミュニケーション事業)

イベント・マネジメント事業では、当第3四半期累計期間には大きなイベントは無かったものの、ファンクラブ事業ではシステム運用の本格的稼働も予定通り進み、今後の当事業の収益確保に貢献できる体制を構築しつつあります。版權事業では、大型ドラマ版權の自社テレビ局での放送をはじめ、CS・BSでの放送決定やDVD・VOD化事業も好調に推移しております。

この結果、売上高は35億14百万円(前年同期比3.8%減)、セグメント利益は4億62百万円(前年同期比72.4%増)となっております。

(放送事業)

放送事業では、自社テレビ局であるKNTV、DATV、リニア配信Kchan!韓流TVの3チャンネル運営体制で多様化する視聴者ニーズに対応し、継続的な視聴料収入の安定化と販路拡大を図ってまいりました。KNTVでは、韓国で最高視聴率22%を記録した痛快アクションコメディ『熱血司祭』が話題となり、東方神起ユンホ出演の爆笑トークバラエティ『横チャンネル』やEXOに密着したリアルバラエティ番組第1弾『EXOのリレー映像記録〜心 for U〜シウミン』を日本初放送してまいりました。さらにDATVでは、チュ・ジフンとチン・セヨン豪華共演のドラマ『アイテム』や、SUPER JUNIORチュ・シウォン主演の痛快×爽快クライムラブコメディ『国民のみなさん』を日本初放送、Kchan!韓流TVでは、注目のネクストブレイクアイドルたちがフレッシュなステージを披露する『Power of K Lab 7』が9月よりスタートし、韓国のソウルから毎月生中継するなど、自社オリジナル番組を制作、配信してまいりました。

また、KNTV、DATV、リニア配信Kchan!韓流TVの3チャンネル共同マスコットキャラクターとして『ときめきリンちゃん』を誕生させ、このキャラクターを活用した積極的なPR活動を開始いたしました。

しかしながら、話題作集中放送に伴い番組償却費用が増加したこと、Kchan!韓流TVのオリジナル番組製作費用などコストが嵩んだ結果、売上高は17億28百万円(前年同期比1.1%減)、セグメント損失は41百万円(前年同期セグメント利益146百万円)となっております。

(その他事業)

その他事業では、売上高は1百万円(前年同期比85.5%減)、セグメント損失は0百万円(前年同期セグメント利益0百万円)となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産は、53億75百万円となり、前事業年度末に比べ10億43百万円減少しました。この主な要因は、現金及び預金が5億59百万円減少、および前渡金が5億20百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、6億60百万円となり、前事業年度末に比べ10億76百万円減少しました。この主な要因は、買掛金が3億67百万円減少、および前受金が6億35百万円減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、47億14百万円となり、前事業年度末に比べ33百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金が53百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度の業績予想につきましては、2019年2月13日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,644,304	1,084,934
売掛金	479,099	379,341
商品	18,568	2,597
番組勘定	816,533	765,838
コンテンツ事業権	1,300,164	1,610,356
貯蔵品	127	130
前渡金	1,107,508	586,766
その他	152,911	73,246
貸倒引当金	△1,566	△1,272
流動資産合計	5,517,651	4,501,939
固定資産		
有形固定資産	38,661	86,948
無形固定資産	89,044	94,694
投資その他の資産		
投資有価証券	539,216	491,478
その他	335,785	303,263
貸倒引当金	△101,709	△102,933
投資その他の資産合計	773,291	691,807
固定資産合計	900,998	873,451
資産合計	6,418,649	5,375,391
負債の部		
流動負債		
買掛金	515,962	148,873
前受金	879,145	243,914
その他	315,028	244,577
流動負債合計	1,710,136	637,365
固定負債	27,164	23,143
負債合計	1,737,300	660,509
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,591,492	4,591,492
資本剰余金	1,825,566	1,825,566
利益剰余金	△1,711,313	△1,658,046
自己株式	△32,974	△32,984
株主資本合計	4,672,770	4,726,026
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10,927	△58,664
評価・換算差額等合計	△10,927	△58,664
新株予約権	19,505	47,519
純資産合計	4,681,348	4,714,881
負債純資産合計	6,418,649	5,375,391

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
売上高	5,335,175	5,047,432
売上原価	4,391,403	4,156,507
売上総利益	943,772	890,924
販売費及び一般管理費	785,648	814,690
営業利益	158,123	76,234
営業外収益		
受取利息	1,691	1,745
還付加算金	—	531
貸倒引当金戻入額	40	—
その他	268	140
営業外収益合計	2,000	2,418
営業外費用		
支払利息	860	642
為替差損	1,721	1,472
その他	33	1
営業外費用合計	2,615	2,116
経常利益	157,508	76,535
特別利益		
新株予約権戻入益	6,073	5,708
特別利益合計	6,073	5,708
特別損失		
固定資産除却損	—	3,969
減損損失	—	1,375
その他	—	168
特別損失合計	—	5,512
税引前四半期純利益	163,581	76,732
法人税、住民税及び事業税	21,580	23,465
法人税等合計	21,580	23,465
四半期純利益	142,000	53,266

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ライツ& メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,573,765	1,747,874	5,321,640	13,535	5,335,175
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	79,653	—	79,653	—	79,653
計	3,653,418	1,747,874	5,401,293	13,535	5,414,828
セグメント利益	268,502	146,308	414,810	884	415,695

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	414,810
「その他」の区分の利益	884
全社費用(注)	△257,571
四半期損益計算書の営業利益	158,123

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ライツ& メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,316,947	1,728,514	5,045,462	1,969	5,047,432
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	197,651	—	197,651	—	197,651
計	3,514,599	1,728,514	5,243,114	1,969	5,245,083
セグメント利益又は損失(△)	462,830	△41,268	421,562	△642	420,919

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	421,562
「その他」の区分の利益	△642
全社費用(注)	△344,685
四半期損益計算書の営業利益	76,234

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。